

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇8月11日～

先週は米国の利下げ期待が高まったことで株高の動きになっています。

日経平均は4万2000円超え、TOPIXは史上最高値更新と日本株も強い動きとなっています。

しかし、為替相場はドル／円が停滞し、ドルも円も買われにくい状況となっています。

トランプ関税については、ほとんどが出揃いましたが、インドは米国に対して対抗措置を取る可能性が高く、39%と高関税が適用されるスイスは米国との交渉を続けるようです。

スイスに関しては、米国との貿易黒字の原因にスイスから米国への金(ゴールド)の輸出が近年急増していることもあり、米国がスイスの金の輸出にも関税を適用することになれば、影響は甚大になりそうです。

為替にも影響が出ており、スイスフランから一部資金が流出しているという話もあります。

チャートで見ても他のクロス円に比べてスイスフラン／円は動きが弱く、先週は停滞した動きになっています。

金融大国であるスイスの動きは金融マーケットに大きな影響を与えるため、スイスに関するニュースは引き続き注視していきたいです。

金とスイスフランは何年も強い動きが続いていましたが、この強気相場のトレンドにも変化が出てくるかどうかとも見ておく必要があります。

また、米国に輸入される半導体に対しては100%の関税をかけるとも発表しており、関税の影響が夏以降、どの程度になるのかが心配です。

ただし、半導体メーカーが米国に拠点を移すことを目的としているため、今後米国で製造することを表明している企業には関税の適用を免除するようです。

関税については細かい部分ではっきりしていないことも多く、各国とも混乱状態となっています。日本も15%の関税について、EUと同様の扱いになると思っていたところ、何かの間違いで現在の関税に15%が上乗せされるとなっているようです。

すぐに修正されると思いますが、自動車関税とあわせて、どうなるのかニュースをしっかりと見ていきたいです。

そして、8日に辞任したクーグラーFRB理事の後任に、大統領経済諮問委員会(CEA)委員長のミラン氏が決まりました。ミラン氏は利下げや金融緩和を主張する可能性が高く、FRBの政策がどうなっていくのかも気になります。

さらに、トランプ大統領とプーチン大統領がウクライナの領土問題について、15日に実施される米露首脳会談で話し合いをするようです。

東部のドンバス全域(ドネツク州、ルハンシク州)とクリミア半島をロシアに渡すことを停戦の条件として言っているようです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

日本はお盆の週ですが、ニュースが色々出てくるかもしれないためリスク管理はしっかりしておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドル／円は方向感のない狭い動きになっています。

146.6－148円のレンジのどちらにブレイクするかに注目です。

146.5 円を割り込むと 146 円あたりにサポートがありますが、146 円も割り込むと 144 円台まで下落するリスクが出てきます。

上値は148.2円を超えると 149 円台が視野に入ってきます。

149.6円を超えると 8 月初めにつけた 151 円あたりを目指す動きになりそうです。

<気になるクロス円>

クロス円のほとんどのペアが先週は上昇してます。

これは、各通貨に対してドル安の動きが続いたためです。

1 日の雇用統計が悪かったことからドル安の動きになっていますが、この流れが今週も続くかどうか見ていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 4－6 月期GDP(速報値)などがあります。

米国では7月消費者物価指数、7月月次財政収支、7 月卸売物価指数、前週分新規失業保険申請件数、7 月小売売上高、8 月ニューヨーク連銀製造業景気指数、7 月鋁工業生産、8 月ミシガン大学消費者信頼感指数、6 月対米証券投資などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で 8 月ZEW景況感調査、ユーロ圏で 4－6 月期GDP(改定値)、6 月鋁工業生産、ドイツで 7 月消費者物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで政策金利、英国で 4－6 月期GDP(速報値)、6 月GDPの発表などがあります。